



有松まちづくりの会役員会(7月27日)

今年度の日本遺産ワークショップとして、「魅力ある有松のヒトとコトの理解」を目的に、「対話型ワークショップ」が9月27日(日)に行われることになりました。

HPの紹介 その5「日本遺産の町 有松」

平成30年「有松日本遺産推進協議会」を文化庁への申請者である名古屋市と有松まちづくりの会を始め地元団体とで立ち上げ、「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町 有松～」のタイトルで文化庁に申請し、令和元年5月に認定されました。

HPでは申請書のストーリーを読むことができます。

《「日本遺産の町 有松」の呼び出し方》

「有松のまち」入力→検索→「有松のまち」トップページ
「日本遺産の町 有松」→「説明文」

日本遺産有松案内コーナー(有松・鳴海絞会館)の紹介

4月1日より有松・鳴海絞会館内に「日本遺産有松案内コーナー」が設置されました。

パネルには、日本遺産のタイトル「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町 有松」のもと、有松のまちが歩んできたストーリーが紹介されています。また、有松・鳴海絞や古い町並み・山車まつりだけでなく、絞り体験やグルメ・ショッピングなど有松のまちの魅力が一目で分かるよう工夫して表示されています。

そして、パネル下のパンフレット配布棚には有松観光に欠かせない、また有松をより理解するための情報が用意されています。中でも右写真のMAPは優れものです。A3判二つ折りと大きめですが、日本遺産有松の全てがコンパクトにまとめられています。これを手に町並みを歩けば、まるで有松あないびとの会の方にガイドしていただいているかのようです。絞り体験や買い物・食事のできるお店もすぐに分かります。

是非とも案内コーナーに足を運んでいただければと思います。

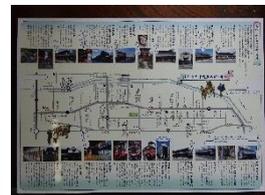
有松かわら版 キャラクター登場

「鍾馗しょうきくん」

よろしく



有松に関心を寄せる湯地昭夫氏が描いて下さいました。新型コロナ退散を願う今の時代にふさわしいキャラクターでは・・・末永く可愛がって下さいな。



有松絞り七夕ストリート開催(6月26日～7月7日) 主催 NPO法人コンソーシアム有松

笹の葉に雪花絞りの短冊がひらひらと揺れ、有松東海道を美しく飾る「有松絞り七夕ストリート」が開催され、多くの方々の話題となっていました。

今年は、6月7日(日)に絞り短冊として使用する雪花絞りの手拭いを作るワークショップも行われ、40名を越す皆さんが参加されました。短冊に願いを込めたのは、有松幼稚園の園児さんや有松小学校トワイライトルーム、松柏苑の皆さんなど地元の方に加え、絞

会館や有松郵便局を利用される方なども真剣な面持ちで取り組まれていました。「足が速くなりますように」「ケーキ屋さんになりたい」といったほほえましいものや「コロナ収束」「家族が健康でありますように」「素敵な人と結婚できますように」など様々な願いが揺れていました。

絞りジャンボのれんの製作始まる(6月30日)

有松日本遺産事業の一環として、有松絞商工協同組合の提案により絞りのジャンボのれんが製作されることになりました。日本遺産のテーマ「藍染めが揺れる町 有松」を藍色のジャンボのれんを町並みに展示することで表現しようという企画です。のれんの大きさは、横4.5m×縦3m。図柄は、広重の有松絞り版画絵。

コロナ禍で製作が延期されていましたが、6月30日に開始。作業場所の絞会館2階を訪問しました。10名程の方々が作業に取り組んでいました。90cm幅の生地4枚に下絵を描いていました。生地の下に置かれたビニールシートの絵を写し取るのですが、難しい。記者も体験させていただきましたが、青花液で筆書きするのは大変で、線が同じ太さになりませんでした。また、「日本遺産の町 有松」の文字を疋田三浦絞りで表現するのですが、そのための型彫りの作業も行われていました。

下絵描きが終わると絞り職人さんたちによる絞り加工です。空目縫い絞り・折り縫い絞り・巻上げ絞りが施されるとのことでした。染色・縫製後、10月1日～11月15日予定で絞会館横駐車場で展示されます。

話をお伺いした村瀬裕氏によると「このような挑戦の最初は、第4回絞りまつりでのジャンボ浴衣の制作。ジャンボのれんもこれまでに広重53次シリーズの内6枚を作った。昔は投影機で浮世絵を写して下絵を描いた。皆がここに集まって下絵描きするのが、毎年の絞りまつりの始まりであった」との事でした。(左:のれん、右:ゆかた)



第4回絞りまつり



寄稿

天下取りへの道 長坂道

— 長坂道 大河ドラマに登場 —

山村幸雄



東海道から長坂道への入口に案内板があります。

『長坂道 ながさかみち 東海道より古い道「桶狭間道」「刈谷道」とも呼ばれ、江戸時代以前よりあった古道。紺屋(こうや)の染場や絞り職人さんの家々が並んでいました。』と書かれています。

有松まちづくりの会HPの有松・桶狭間お宝カルテ「お宝名称 長坂古道」の説明には

『有松の西、祇園寺門前から国道1号線に通じる道幅1間ほどの小道の入口があります。この道は天保12年(1841)の桶狭間村絵図にも記載されている東海道より古い道です。古道の北端は祇園寺で、当時は東西をつなぐ重要な道であったと思われます。別名桶狭間村道、刈谷街道と呼ばれていました。絞りで繁盛していた時代、商家の裏道でもあり、道脇には紺屋などの絞りの下職が点在していました。この小道は背後の樹木や倉がマッチし、日中でも人通りが少ないが故に季節の折々に見せる風情は人々の心をほっとさせてくれます。(引用文献、加納 誠著「旧街道のなぞに迫る」)』とあります。

さて、戦国時代はどのような道であったのでしょうか。NHK大河ドラマ「麒麟がくる」で今川義元を討ち取った後、信長が清須へ引き上げて行くシーンがありました。その道こそ長坂道です。天下取りへの道です。

その根拠を考えてみたいと思います。

その1 地元の伝承として、桶狭間の戦い本戦の時、長坂道を織田軍が桶狭間へ向かった道だと言い伝えがあります。(信長本人か別働隊か) また、高根山の東に生山(はえやま、はいやま)があり、織田軍が這い上がって桶狭間に向かったとの言い伝えもあります。

その2 戦いが済み、信長が清須へ引き上げるときの道が長坂道。当時、桶狭間から清須へ行く最短コースでした。その先は、美濃へ続く。またその先は、京の都へと続く道です。

その3 信康事件後、天正8年(1580)2月20日、信康の正室(信長の娘徳姫)が桶狭間を通り美濃へ帰っていった道。家康は徳姫を岡崎で見送りしている。(「家忠日誌」より) 信康事件は家康にとって、家中分裂という危機から脱し、武田氏との戦闘に集中する態勢を整えていったと言えます。信長との同盟は続き信長の天下取りにつながります。徳姫が長坂道を通って美濃へ帰ってから2年後、天正10年(1582)本能寺の変で信長が明智光秀に討たれ、秀吉の天下統一、その後、家康の天下統一、江戸幕府の成立へとつながって行きます。



祇園寺前から右下へ続く道が長坂道
知多郡有松村絵図



「麒麟がくる」のシーン



現在の長坂道

有松の紙芝居のはなし4 「庄九郎と仲間たち」

(文：浅野康子 絵：福岡友一)

この紙芝居は、浅野さんが書かれたものの中でもっとも上演機会が多いものです。題名から分かるように、有松開村と有松絞り発生の物語です。制作にあたって浅野さんは次のように語っています。

「以前『有松の庄九郎』という本が出版されました。その時、あないびとの会の会長をされていた成田治さんから紙芝居を作ろうと声を掛けられました。ざっと本を読んだ私は、そのストーリーのイメージだけ拝借して、それまで町並み案内で培った知識を織り込んで台本を作りました。有松絞りがまちの産業になっていったお話です。今までに小学校・中学校や地域のイベントなどで紙芝居を披露させていただいております。」

最近では、デイサービスでの上演など広がりを見せています。また、紙芝居の読み手も少しずつ増えてきているとのこと。



『有松の庄九郎』

中川なをみ：作
こしだミカ：画
新日本出版社



川村屋東蔵の鍾馗像

お勧めスポット：

川村屋の鍾馗像

東海道沿い軒先や屋根に瓦の鍾馗像が見られます。中には手作り感あふれるものもあります。体験教室で作られたのでしょうか。

訃報

河村順平氏（有松まちづくりの会 参与）が、7月7日逝去されました。享年92歳の大往生で、葬儀は親族葬で行われました。河村氏は、若い頃野球をされ、有松では文嶺講総代長として祭りを指揮され、その後有松まちづくりの会に入会されました。会では長く会計監査を務められ、その後参与として会の運営を支援してくださいました。ここに生前のご協力に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

催事・行事の予定

8月02日（日）09：00 有松東海道青空市 有松商工会周辺 青空市運営委員会

8月17日（月）18：00 有松町並み相談会 コミセン

8月22日（土）～30日（日）10:00～15:00 浮世絵と写真が語る有松展(仮称)

8月22日（土）13:30～15:00 トークショー：浮世絵と写真で探る有松のウソ？ホント？(仮称)

上記2件 場所：山田家住宅主屋和室（旧山田薬局） 主催：NPO法人コンソーシアム有松

8月23日（日）07：30 かえで道清掃 有松まちづくりの会

8月24日（月）18：00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者：竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者：加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

有松のまち

検索

